

大正大学

カウンセリング研究所紀要

第45号

'22.12

目次

巻頭言

- ・保健・医療の現場で心理専門職に求められていること 近藤 直司

論文

- ・思春期の自閉スペクトラム症児の友だち関係を支援するプログラム
～PEERS オンライン版の実践報告～ 井潤 知美・西牧 陽子・黒田 大貴
- ・心理療法における主体の2側面：有機体的反応性と真摯な認識 久羽 康
- ・新入生サポート・プロジェクトでの取り組み
—英国バース大学との発達障害学生支援のための共同研究を通して—
内山 登紀夫・西牧 陽子・黒田 大貴・保科 保子・伊瀬 陽子

講演録

- ・令和3年度 地域精神保健研修会 公開講座
家庭の中の暴力 伊藤 直文

研究報告 令和3年度

- ・子育てに困難を抱える家族への支援の実践と展開
—ペアレントトレーニング, PCIT, AF-CBT の実践を通して—
犬塚峰子・井潤知美・柳田多美・西牧陽子・保科保子・黒田大貴・
飯島帆南・旭未可子・石橋明
- ・新入生サポート・プロジェクト 内山登紀夫・西牧陽子・保科保子・黒田大貴

カウンセリング研究所所報

執筆者紹介

執筆要項

I 編集規定

1. 本誌は、大正大学研究所の所員，研究生，卒業生および当研究所に関係する者のカウンセリングの実践，理論，技法，および近接領域に関する未発表の論文を中心に編集する。
2. 本誌は，年1回発行する。
3. 本誌に，論文，事例研究，所報，書評の各欄を設ける。
4. 本誌の編集は，編集委員会を通じて行い，原稿掲載の可否は編集委員会の決定による。掲載原稿については編集の都合上体裁を変更することがある。
5. 原稿は完成原稿で提出するものとする。編集委員会による査読を経て掲載が決定した論文の校正の際は，原則として誤字・脱字以外の訂正を認めない。校正は初校のみ（著者校正）とする。
6. 原稿は Word 形式で，指定の期日までに研究所内担当者に提出する。
7. 著者には完成原稿の PDF データを謹呈する。

II 執筆要項

1. 論文および事例研究は，原則として400字詰原稿用紙50枚以内（図表を含む）とし，400字前後の要旨（和文）を付すものとする。
2. 原稿はすべて横書きとする。
3. 原稿は当用漢字，新かなづかいで，字句・内容を明確に記すこと。
4. 図および表は，必要最小限にとどめること。
5. 人名は，初出ではフル・ネームを記し，以後は姓のみとする。外国人名は初出で原語を示すこと。
6. 数字は算用数字を使用すること。
7. 注は必要最小限にとどめ，本文のあとにまとめて示すこと。
8. 引用文献・参考文献は最後に文献として一括し，本文では原著者名，発表年のみを記すこと。
9. 文献は著者の姓を基準にしてアルファベット順に記載すること。文献の記述形式は『心理臨床学研究』に準拠する。
 - 1) 雑誌の場合：著者名，公刊年（西暦），論題，誌名，巻，記載頁の順序とする。
 - 2) 単行本の場合：著者名，発行年度（西暦），書名，発行所，引用頁の順序とする。

ただし，編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は，該当執筆者を筆頭にあげ，以下，発行年度，論題，編者名，書名，発行所，頁の順とする。
 - 3) インターネットから文献を引用する際は，URL と最終閲覧日を記す。
10. 年号は，すべて西暦を用いること。
11. 論文の執筆にあたっては，論文の内容，研究の手続き，公表の仕方に関して，十分な倫理的配慮を求めると。症例・事例を提示する際には，匿名性，倫理的観点に配慮し，配慮の具体的な内容を論文中に記載すること。また，論文の掲載にあたり，編集委員会が論文の内容について修正を求めることがある。
12. 掲載された論文は，原則として全文が大学リポジトリに掲載されるが，著者もしくは編集委員会が必要と認めた場合には，目次のみ，要旨のみを掲載することができる。

本誌掲載の事例研究に関しては，秘密保持について格別の配慮をお願いいたします。

大正大学カウンセリング研究所紀要 第45号

令和4年12月 発行

編 集 大正大学カウンセリング研究所

発 行 所 東京都豊島区西巢鴨3-20-1 〒170-8470

☎東京 (03) 3918-7311

大正大学出版部

印 刷 所 東京都文京区大塚5-40-5 〒112-0012

☎東京 (03) 3941-3921

(有)立花印刷

Annual Report
of
The Institute of Counseling
Taisho University

No.45

December 2022

CONTENTS

Naoji Kondo The roll of psychologist in public health and medical field —————	3
Tomomi Itani, Yoko Nishimaki, Daiki Kuroda Parent-Assisted Social Skills Training for Adolescents with Autism Spectrum Disorder —PEERS® via Telehealth Delivery— —————	5
Yasushi Kuba Two aspects of subjectivity in psychotherapy: organismic reactivity and sincere recognition —————	15
Tokio Uchiyama, Yoko Nishimaki, Daiki Kuroda, Yasuko Hoshina, Yoko Ise Implementation and evaluation of a cognitive behavioural therapy (CBT) programme for First year University students —————	25
Naohumi Ito Understanding and coping with domestic violence —————	39